

社会科学習指導案

6年2組 安野 雄一

1. 単元名 「核利用は世の中を“豊か”にするのか」

2. 研究主題

価値判断・意思決定力を働かせ、未来を思考する力を育む社会科授業
～過去・現在の社会的事象に学び、未来を「そうぞう」する子どもたちを育む場の構成～

(1)単元について

子ども達は、歴史単元（「1大昔のくらしと国の統一」～「10新しい日本へのあゆみ」）、そして政治単元（「わたしたちの願いと政治のはたらき」）について、資料や書籍、ICTを活用しながら調べて考え、対話する中で学びを深める活動などを通して学習してきた。その中で、これらの過去の社会的事象と現在及び未来を結び付けて考え、よりよい未来を「そうぞう」する活動も進めてきた。本単元では、特に遠隔授業などを行い、被爆地に生きる人や被爆体験者、戦地を経験した人と繋がりながら、1930年代から1945年までの戦争における日本の被害面及び加害面の両面から、平和の在り方について模索した学習経験を活かすものとする。その上で、核利用を巡る過去―現在の社会的事象を多面的に捉え、未来を「そうぞう」する学びを行い、多面的に考えて価値判断を繰り返しながら、より社会認識を高める学習を進めていく。

(2)単元の目標

- 核利用を取りまく過去・現状や課題などから、その働きが、国民生活にさまざまな影響を及ぼしていることや、エネルギーの有効な活用について、進んで資料や書籍、ICTを活用して調べて考え、情報利用の在り方について価値判断・意思決定しようとしている。
【主体的実践力（関心・意欲・態度及び思考・判断・表現、知識・理解）】
- 核利用の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、世界や日本、私たちの在り方について、絵図や文書資料、年表、地図などの基礎的資料を効果的に活用して、他者と協働して社会的事象について調べたり対話したりしながら、より高次の思考をし、価値判断・意思決定したことを使って、表現することができる。
【協働的実践力（観察・資料活用の技能及び思考・判断・表現）】
- 核利用と社会、私たちの暮らしの関係、及び世界や日本、私たちの在り方についてについて、調べたり、考えたり、価値判断・意思決定したりしたことをもとに、よりよい未来（社会）を「そうぞう」することができる。
【創造的実践力（観察・資料活用の技能及び思考・判断・表現）】

(3)活動構成の仮説

未来そうぞうとの関連…核利用が世の中を豊かにするののかについて過去―現在―未来を繋いで思考を広げ、深める活動を通して、未来そうぞう科における協働的・創造的実践力を主に養うことが出来る。

①主体的且つ協働的にアクティブな学びを展開することで、積極的に社会的事象と関わろうとする子どもが育つ

世界や日本の社会と私たちの生活との関係について、自ら調べて考え、価値判断・意思決定し、他者との対話・討論を通して、自他の調べて考えたことを比較したり結び付けたりして考え（思考を揺さぶり合う場を設け）たり、社会的事象に直接関わる人と対話することで、子どもたちはより積極的に社会的事象と関わる力を高めることができる。

②過去―現在―未来を結び付けて調べて考え、価値判断し未来を「そうぞう」することで、社会認識がより高まる

過去―現在の社会的事象、特に本単元では、歴史単元で学習したことや被爆体験者との対話、生活経験を踏まえた上で、未来の社会や自分の在り方を「そうぞう（想像・創造）」する学びにまでつなげる事で、知識を再構成するとともに、より社会認識を高める事が可能となる。また、自分たちが生きる未来について思考を進める中で、よりよい社会の形成者としての公民的資質の基礎を養う事ができる。

3. 単元計画（8／10時間）

